

令和7年度第2回 高砂市地域公共交通活性化協議会利用者分科会 議事録

開催日時	令和7年10月7日（火）14時00分～16時00分
場 所	高砂市役所本庁舎3階301
協議事項	高砂市地域公共交通計画（素案）について
出席者	「令和7年度第2回高砂市地域公共交通活性化協議会利用者分科会出席者名簿」のとおり
主 旨	高砂市地域公共交通計画（素案）について議論する。

1 開会

〔司会〕

定刻となりましたので、これより「令和7年度第2回高砂市地域公共交通活性化協議会利用者分科会」を開会いたします。

本日は、大変お忙しい中、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。それでは、開会にあたり本分科会の会長よりご挨拶を申し上げます。

【 会長挨拶 】

〔司会〕

次に、本日の委員の出席状況については、委員10名中、8名の委員が出席されております。分科会規程第4条第2項により、協議会規約第8条第2項準用し、過半数の委員にご出席いただいておりますので、本会議が成立したことを報告申し上げます。

次に、資料の確認をさせていただきます。

【 配布資料確認 】

〔司会〕

続きまして次第3協議事項に移ります。以降の議事進行については会長にお願いしたいと思います。

2 協議事項

〔会長〕

協議事項に入る前に、傍聴希望者の確認をしたいと思います。傍聴希望者は、おられますでしょうか。

〔司会〕

事前の傍聴申込はありませんでした。

〔会長〕

分かりました。それでは、協議事項である高砂市地域公共交通計画（素案）について、事務局から説明をお願いします。

【 事務局説明 】 協議事項

〔会長〕

事務局の説明について、ご意見・ご質問等はございませんか。

〔委員①〕

今回の計画は公共交通に関する総合計画ということですが、市民や利用者としては具体的な各論が知りたいです。本文は綺麗な言葉で書かれており、総合計画だから仕方がないとは思いますが、「検討する」、「期待する」といった言葉が多いので、具体的な内容があまり見当たりませんでした。

〔事務局〕

公共交通の総合計画であるため、どうしてもそのような文言が多くなってしまいます。具体的な施策として、P37に示す7つの事業がありますが、実際に何をするのかというのは分かりにくい部分があるかと思います。引き続き、協議会の場で協議をしながら皆さまと一緒に作っていきたい。

〔委員①〕

公共交通を維持するために、便利な車ではなく、敢えて不便な公共交通を利用するという人は少ないと思います。そういう人もいるかもしれませんが。これまでに何度も議題に挙がっている加古川市への乗り入れについても「検討する」という言葉に留まっています。自分の例でいうと、高砂市民病院も加古川中央市民病院も距離的にはあまり変わりませんので、どちらもじょうとんバスで行けるような選択肢があればいいと思います。加古川中央市民病院に行く場合、宝殿駅まで出てきて、加古川駅からシャトルバスに乗って加古川中央市民病院に向かう形になりますので、じょうとんバスで直接行くことができれば、利用者も増えると思います。こういった施策を迅速に実施し、市民に見える形になることを期待しています。

〔会長〕

計画の性質上、総論が多く、各論が少ないということは認識しています。今後、何から実施するかというのは考えていきたいと思います。じょうとんバスについては、P41に記載があるところですが、定期的な路線の再編を行っているところですが、現状は利用者が増え続けている状況ですので、路線や時刻を大幅に変更することは勇気が必要かと思います。現在、じょうとんバスミニで市ノ池・高御位山観光ルートについて、水・土・日の運行を行っています。残りの曜日で何かできないかと考え、北浜地域で検討を行っているところです。じょうとんバスミニについては今後も運行を拡大していきたいので、それを加古川にまで乗り入れるのか、他の地域で運行するのかは、地元の意見も聞きながら検討ができればと思います。

〔委員②〕

今回の議題は計画の素案ということで、大きな方針としてはこれで良いのではないのかと思い

ます。しかし、もっと細かく考えると、市民としては「いつ」、「どこに」移動したいかということが基本になります。市民の考え方とギャップがないようにして欲しいです。指標の中で5年後にアンケートを取るという話もありましたが、このままでは結果も一緒かと思います。市民としては行きたい場所に行きたい時間に行けることを期待しています。タクシーであっても運転手不足の関係で時間通り来ないという話もありますが、もっと市民に寄り添う協議会として考えてもらいたいです。

〔事務局〕

ご指摘があったとおり、市民のニーズに合った公共交通を構築することは大前提であると考えます。市内の公共交通としては鉄道やバス、タクシーがあり、市が直接運行を行っているのがじょうとんバスになります。それぞれの事業者は営利が目的ですが、じょうとんバスについては市民の足が目的として運行を行っております。法に基づいて今回の計画を策定することになりますが、これまでは複数の交通モードをまとめて協議する場はありませんでした。公共ということからも、全ての方の全てのニーズに応えることは難しいですが、協議を続けながらニーズに応じていきたいと考えます。

〔委員②〕

公共交通は絶対に必要なもので、赤字など様々な理由もあるかと思いますが、辞めることはできません。例えばですが、後期高齢者にタクシーチケットを配るという方法もあるかと思います。公共交通は、定期を買って通勤で使う方、買い物で使う方、あるいは高齢で行動範囲が狭くなってしまった方など様々な方が利用します。現在、福祉部局で高齢者福祉タクシー料金助成事業を実施しており、助成には条件がありますが、500円のタクシーチケットを年間で24枚もらうことができます。仮に、75歳以上全員に料金助成を行うとしたら、費用としてどのようなものになるでしょうか。

〔事務局〕

使用があったチケットに対して市が後払いしています。利用率に関しては60%程度と聞いており、配布は行ったものの、利用されなかった方も中にはおられます。詳細なデータは持ち合わせておりませんが、単純に、500円×24枚×75歳以上人口の計算では費用は出ません。一方で、タクシー料金の助成というのも手段の一つであると認識はしています。各地域の状況にもよりますが、じょうとんバスの運行やタクシー料金の助成を比較しながら、より有効な手段を見つけられればと思います。

〔委員②〕

障害者（児）福祉タクシー料金助成事業もあり、こちらは500円のタクシーチケットを年間で48枚もらうことができ、利用率は55%程度と聞いています。残りの45%の方は何らかの理由で使用されていません。つまり、使用されなかった分が市の予算として残ります。もし可能であればそういった予算を活用しながら、新たなタクシー料金助成事業等と併用できればいいなと思いました。

また、地域福祉の話題になりますが、最近は地域の方が主体となった支え合いの推進が行われ

ています。特に阿弥陀地域では、生活支援に加え移送支援を行うために、そういった活動が行われていると伺っています。そういったものも活用し、既存の公共交通、タクシーの料金助成事業、地域主体の移送支援など様々な手段があれば、将来、役に立つのではないかと思います。

〔委員①〕

社会福祉協議会に車両を用意してもらい、去年の秋頃から阿弥陀つなGOを実施しています。ところが、利用者が10人程しかいませんでしたので、もっと利用者を増やすためにも、昨日、チラシの全戸配布も行ったところですよ。月1回までの利用で、片道500円、往復1,000円で実施しています。

〔委員②〕

無料というわけではないですね。

〔委員①〕

タクシーとの兼ね合いもありますので、現在の料金設定になっています。

じょうとんバスについて、通勤等の利用も多いと思いますので、予算もそうですが、福祉とは分けて考えてはどうかと思います。それこそ、福祉に関してはタクシー料金の助成や、デマンド交通など、必ずしも定時定路線での運行ではなく、必要に応じた対応ができればと思います。阿弥陀地域ではじょうとんバスミニの運行がありますが、良くて利用者は一人で、村の出入り口で良く見るのはデイサービスの車両です。やはり、自家用車が使える人からすると、じょうとんバスを利用することは難しいです。今後は高齢者が更に増えますので、加古川市や姫路市に行けたら利便性が増すと思います。

〔委員③〕

P56に横断的な取組みについて記載があります。福祉分野との連携が今から始まるように見えますが、実際には、タクシー料金助成事業や、思考段階ではあるものの支え合いづくり協議会の取組みも行っていますので、表現に工夫ができればと思います。福祉の分野に関しては、高齢者や障がい者の個別のニーズがありますので、公共交通の全体的なニーズとは異なるものが福祉交通になります。下段に「地域の輸送資源と連携の検討」とあります。現在、北浜地域において、地域ボランティアとタクシー会社が連携して、地域の個別の移送ができないか検討しているところです。「道路運送法の許可又は登録を要しない運送に関するガイドライン」においても、地域ボランティアによる活動は無くてもならないものという意味合いで書かれており、しっかりと協議が必要であるとも書かれていました。あと、教育分野との連携については何か具体的なイメージがあるのでしょうか。

〔事務局〕

福祉との連携については継続して行っているところではありますが、今後はより連携を行い、公共交通も福祉も一体的に考えられるような意味合いを込めて記載しています。地域の輸送資源との連携につきましては、あみだつなGOが該当するかとは思いますが、現時点では試験運行ですので、具体的な記載は避けています。教育との連携については、部活動の地域移行については詳細

が未定ですので、具体化したタイミングで必要に応じて検討することになります。

〔委員①〕

部活動の地域移行については、先日、説明会が開催されました。どなたかが、「バスを出せないか」と質問したところ、教育の担当の人は回答に困っている様子でした。この計画を見ると、プールに関する記載もあったりするので、今後は前向きに検討をするという認識で良いでしょうか。

〔事務局〕

現時点では具体化していませんので、「時代の変化に応じて」と記載しています。じょうとんバスで運行できるのか、専用のスクールバスになるのかは今後の検討になります。

〔委員①〕

こうやって計画書に記載されていると、期待してしまう部分があります。

〔事務局〕

国としては福祉や教育の連携を進めているところですが、ここでいう連携は、福祉車両やスクールバスが空いている時間帯に公共交通として一般の方も利用ができないか、といった意味合いになっています。免許や車両の問題もあるので実際には難しいと思いますが、計画には盛り込む必要があると思い記載しています。

〔委員②〕

部活動に対してじょうとんバスを運行するという発想があるのであれば、今以上に台数を増やせるのではないのでしょうか。

〔会長〕

P56の文言についてはこれまでに修正を何度も繰り返しました。様々な連携を検討するなかで、部活動だけでなく買い物利用も可能とするなど、利用者がV字回復した事例が他市であります。じょうとんバスは現状5台ですが、仮に今以上の運行を行うにしても、用途に応じて福祉や教育の予算を使用するなど、横断的な取組みを行う際の旗印という意味を込めて計画書に記載しています。例えば、高砂中学校の部活動に阿弥陀から通いたいという人がいる場合は、教育だけでなく公共交通の所管も一緒になって、検討を行うことができればと思います。

〔委員①〕

話としては分かりますが、教育委員会とはどれほど話ができているのでしょうか。先日の住民説明会ではそこまでの話はありませんでした。また、部活動の利用と買い物の利用は実現ができるものなのでしょうか。総合計画に留まらず、総論から各論に繋がるよう検討してください。

〔会長〕

補足としまして、教育委員会としては徒歩・自転車を想定しています。部活動の地域移行につ

いては、それぞれの部活の拠点をどこにするのか、人数はどれくらいか、そういった部分が具体化されたうえで、教育委員会だけでなく都市創造部も一緒になって検討を行います。

〔委員④〕

企業目線の話になりますが、高砂市は南北の道路で渋滞が起こりやすく、通勤時に不便であると感じます。加古川とまでは言わなくとも、宝殿駅から荒井駅までを結ぶ路線の便数がもっと多ければ、利用者も増えるかもしれません。そこで得た利益を他の路線に使うという循環ができればと思います。荒井には大企業が多いので、高砂駅と比べるとやはり荒井駅の利用が多いと思います。荒井にある大企業への通勤を考えると、山陽電鉄沿線の方は便利かもしれませんが、JR沿線の場合は南北の移動が難しいです。市民の足としての利用だけでは限界はあるかもしれませんが、南北の移動が改善されれば利用者が増え、ゆくゆくは人口増に繋がるかもしれません。

〔事務局〕

じょうとんバスは令和3年度に路線の再編を行いました。その際には宝殿から荒井・高砂の南北ラインの便数をできる限り増やす工夫をしました。特に通勤の時間帯である朝夕は30分に1本の運行を行っており、じょうとんバスの全体の利用者は約12万人ですが、そのうち約10万人が当該路線の利用者で占めています。車両や運転手の関係もありますが、現状でできることは最大限やらせてもらっています。

〔委員④〕

加古川市へ乗り入れるというのはまだまだ計画段階ということでしょうか。

〔事務局〕

加古川市まで乗り入れると往復で1時間はかかりますので、そうなると今以上にじょうとんバスの台数を増やす必要が出てきます。加古川市から高砂市へ乗り入れることもできればいいですが、具体化はしていません。

〔委員④〕

加古川市のかこバスとの相互乗り入れができれば台数の確保ができ、利用者も増えるかもしれません。

〔委員⑤〕

15年ほど前に神姫バスと連携してバスの運行を行ったことがありますが、利用者数が伸びず廃止になったことがあります。やはり南北の道路が渋滞するので、通勤で使用するとなると、遅延しないかの心配がありました。現実的には難しいかもしれませんが、バス専用レーンなんかがあれば改善できたかもしれません。

〔会長〕

今後、連続立体交差事業で踏切を高架化したら人の動きが変わるかもしれません。

〔委員④〕

バスだけでなく、自動車通勤する方も渋滞に巻き込まれます。特に8時頃は顕著で、その時間帯にバスを運行する場合は30分に1本が良いのか、15分に1本が良いのか。運転手の確保、渋滞の解消、どちらを優先すべきかという話も出てきます。最近はJR沿線の企業に人が集中する傾向がありますので、若年層の流出も懸念されます。何か一つ、やれることからやっていった方が良いと思います。

〔会長〕

道路もふまえて課題として認識していきたいです。

〔委員⑥〕

観光に関する流入人口は増えています。一方で、高砂駅から高砂町までのラストワンマイルをどうやって埋めるかが課題となっています。最近は旅行会社がコンサル業をやっており、例えば、国から補助をもらいながら駅にパーソナルモビリティを置いたり、決済システムを構築したりなどの提案があり、実証実験について市シティプロモーション室に相談しましたが、時期尚早ということで実現には至っていません。観光需要として、高砂町と生石神社を一日で回りたいという要望がありますが、貸し切りバスを使用する場合などを除き、実際は難しいです。加古川市との話もありましたが、高砂町から鶴林寺に行きたい場合は、電車とバスを乗り継ぐ必要がありますので、直通便があれば便利です。加古川中央市民病院へ行きたいという話がありましたが、仮に乗り入れを行う場合、受益者負担が必要になります。高砂市民病院の移転の話もありますが、上位計画である高砂市総合計画のように、都市政策課だけでなく、もっと大きな枠組みで話ができると思います。

P42についてですが、これは前期に定時定路線運行、後期でデマンド型運行を検討するというのでしょうか。

〔事務局〕

P42は前期と後期で運行を分けているわけではなく、現在は定時定路線運行ですが、必要に応じてデマンド型運行を検討するという意味です。

〔会長〕

観光拠点についてネットワークができれば便利ではあると思います。生石神社では先日映画の撮影もありましたので、市民にPRする中で、公共交通機関があればもう少しプッシュできたかと思っています。

〔委員⑦〕

駅の近くに住んでおり、普段は車に乗ることからも、あまりバスは身近ではありません。高齢の母も自分の車に乗せています。ただ、じょうとんバスの70周年記念ラッピングは可愛いなと思っていました。

〔会長〕

P11にあるように今後は高齢者が増え、長いスパンで見た場合、高齢者の分布もニーズも変わ

ってくると思います。すぐにでも各論が欲しいという意見もありますが、市として今使えるツールはじょうとんバスミニですので、要所要所で運行ができる環境が構築できればと考えます。高砂町・向島観光ルートは利用者が目標人数に達しなかったため休止になりましたが、今後もトライアンドエラーを繰り返しながら、流動的な対応を検討します。

〔委員⑤〕

何か一つでも事業を完成させて盛り上げられればと思います。現状のマイナス点ばかり見るのではなく、今、じょうとんバスを利用する人の理由も知りたくなりました。普段はどこに行くのに利用するかなど、そういった部分から何かが見えればいいなと思いました。

〔会長〕

先ほどのご意見のように、じょうとんバスの良いところをアピールできればと思います。宝殿駅から生石間について、以前は自転車利用が多かった気がしますが、最近はバスに7、8人乗ってくれています。やはり雨の日なんかはバスが便利かと思います。じょうとんバスの利用者は年々増えていますので、市民の皆さまの足として使ってくれている実感があります。

〔会長〕

他にご意見等がありますでしょうか。P68に記載のとおり、PDCAのなかで前年度の評価を行いながら次年度の計画を考えますので、今後のご意見をいただければと思います。

3 閉会

〔司会〕

会長、議事進行をありがとうございました。委員の皆さまは、熱心なご議論を賜りありがとうございました。地域公共交通計画の策定に向けて、委員の皆さまには引き続き、ご協力を賜りますようお願いいたします。それでは以上をもちまして、令和7年度第2回地域公共交通活性化協議会利用者分科会を閉会いたします。皆さま、本日はありがとうございました。

以上

令和7年度第2回 高砂市地域公共交通活性化協議会利用者分科会 出席者名簿
(令和7年10月7日(火)14:00～ @高砂市役所本庁舎3階301会議室)

高砂市地域公共交通活性化協議会分科会 構成委員

	委員名	団体名	役職等	出欠	備考
利用者分科会	1 井上 陽介	高砂市	都市創造部長	出席	
	2 松本 克英	高砂市連合自治会	会長	出席	
	3 阿部 伊三男	高砂市老人クラブ連合会	会長	欠席	
	4 寺延 順市	高砂市中心身障がい者連絡協議会	代表	出席	
	5 中野 直子	高砂市社会福祉協議会	参事兼事務局次長	出席	
	6 後藤 純次	高砂商工会議所	副会頭	出席	
	7 和田 雅樹	(一社)高砂市観光交流ビューロー	事務局長	出席	
	8 中村 葵	イオンリテール(株)	イオン高砂店長	欠席	
	9 名嶋 美幸	市民代表		出席	
	10 富川 真知子	市民代表		出席	